

KYOEI 協栄産業株式会社 ジャパンテック株式会社

栃木県立宇都宮清陵高等学校 生徒会

皆さんは「ペットボトルリサイクル」という言葉を聞くと何を思い浮かべるだろうか? 今回、ペットボトルリサイクルで世界でもトップレベルの技術を持つ協栄産業グループの2つの工場に栃木県立宇都宮清陵高校 生徒会が訪問し、ペットボトルリサイクルの最前線を見てきた。

ペットボトルの湧き出る「都市油田」

日本では年間約60万トンのペットボトルが販売されている。ペットボトルは、石油を原料に作られている。数年前までペットボトルは飲料容器に使用されると、改めて飲料容器に戻ることはなかった。もし飲料用ペットボトルを飲料用ペットボトルにリサイクルすることができたら、飲料用ペットボトルの分の石油は使わなくて済むのではないかな? また半永久的に資源を循環させることができるのではないかな?

そんな技術を可能にしたのが、協栄産業株式会社とそのグループ会社であるジャパンテック株式会社だ。協栄産業の古澤栄一社長は「『ボトル to ボトル』の技術でPET樹脂を作るのは、石油からPET樹脂を作るのに比べ63%ものCO₂排出削減になる。温暖

化問題と資源問題に対して同時にアプローチができる技術なんです。」と言う。

協栄産業では、都市から出される使用済みペットボトルは石油と同等の価値を持つとして都市に湧く「油田」「都市油田」と位置付けている。

リサイクルへの意識と現状

日本人のリサイクル意識は世界でNo.1。ペットボトルに限って言えば9割以上が回収

されている。しかし、回収された使用済みペットボトルの約半数が海外に流出してしまっている。

皆さんのペットボトルリサイクルへの意識を無駄にしないためにも、回収ボックスの先がどうなっているかをぜひ調べてみてほ

しい。そして、国内でペットボトルが循環できるような社会を考えていってもらいたい。



粉碎、洗浄、乾燥を通してきれいなPETフレークとして再生される。

古澤社長から高校生へのメッセージ

日本は資源の乏しい国です。この先、どうやったら今と同じような生活が続けるのか、これからしっかりと学んで考えていってください。



主原料から、東からイロにPETボトルの山。

資料参考 PETボトルリサイクル推進協議会 2013年度統計データ

感想

(2年)

今日のことを学校で伝えて、ペットボトルをリサイクルしやすく出せるようになります。

(2年)

ペットボトルのリサイクルを広めて、地域の活性化に役立てたいと思いました。

(1年)

リサイクルの現場を見せたいので、将来何らかの形で関わりたいなと考えています。

(2年)

「ボトル to ボトル」の技術はスゴイです。学校だけでなく、地域にも広めたい。

(1年)

ペットボトルが捨てられているのを見てなんとも思いませんでしたか、資源という意識が湧いてきました。

(1年)

ペットボトルの可能性を伝えて、リサイクルの意味をもっと勉強しようと思います。